

令和3年3月 市長定例記者会見

令和3年2月17日(水)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和3年3月市長定例記者会見を始めます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思いますと考えております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、まず挙手をお願いいたします。そしてご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくをお願いいたします。

それでは、市長、よろしくをお願いいたします。

【市長】 それでは、3月定例記者会見でございます。まだ2月の中頃ですけれども3月議会の開催ということで、今日は3月議会の告示日でありますので記者会見をさせていただきます。

議会につきましては、2月24日から3月22日までの27日間という予定で行われます。令和3年度当初予算や令和2年度3月補正予算、また一般議案を上程させていただきますので、議会に承認していただけるようしっかりと説明をしていきたいと考えております。

また、昨日から新型コロナウイルスの感染者が敦賀で発生しておりますけれども、保育園関係の調査につきましては、PCR検査の結果、職員、栗野保育園につきまして、また関連する児童クラブの職員につきましても全員が陰性だったということで一段落、ほっとしているところです。また、児童の皆さんにつきましても検査が終わって、数名残しておりますが、検査した分につきましては全員が陰性だったということです。ここから広がらないようにしっかりと対応していきたいと思っています。

また、民間の施設等や学校等でも出ておりますので、そこもしっかり県と調整しながら対応していきたいというふうに考えております。

今日は発表項目2項目ですけれども、どうぞよろしくをお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 では、事業発表2項目でございます。

1つ目は、令和3年度当初予算、令和2年度3月補正予算概要ということでご説明を申し上げます。

令和3年度は、コロナ禍の影響を踏まえた初めての予算編成となり、限られた財源を重点施策へ配分することを基本に当初予算編成を行いました。このため、当初予算編成に当たっては、コロナ禍における地域経済活性化に向けた積極的な予算配分の中においても収支の均衡を保つため、財政調整基金やふるさと納税を原資とする各種目的基金の繰入れを行うとともに、国の補正予算に合わせて事業の一部を令和2年度3月補正予算に前倒しす

ることにより国庫補助金の積極的な活用を図りました。

予算計上事業につきましては、予算編成方針の重点施策に掲げた新幹線開業に向けたにぎわいの創出やコロナ対策、人口減少対策を中心に予算配分を行うとともに、公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の策定に併せて、学校等の公共施設の修繕や保育園、空調設備の計画的な更新など、市民生活の満足度向上を図る予算を多数計上しております。

また、前年度に比べて予算計上額は減少しましたが、新庁舎整備や小中一貫校整備などの継続事業についても引き続き所要額を予算計上しております。

その結果、新年度の予算規模は前年度と比較して、一般会計は9.6%の減、全会計では5%の減となったものです。

当初予算の主な事業といたしましては、お手元に配付した資料のとおりですが、予算編成の重点施策ごとに主要な事業等を申し上げます。

初めに、新幹線開業に向けたにぎわいの創出につきましては、コロナ禍の現状等を踏まえ、まちづくりを担う人材育成のための事業や、昨年に引き続き国道8号空間にて社会実験を行い、市民の普段使いの場となるよう継続して支援する事業等を計上いたしました。併せて、従来から進めている駅西地区官民連携事業につきましては、開業延期等の影響を見極めながらも、従来のスケジュールどおり令和4年夏頃の工事完成を目指し、その整備に係る所要額を計上しております。

次に、アフターコロナを見据えた社会経済活動の推進につきましては、引き続きコロナの影響を受け続ける市民の皆様の生活を支援するため、上下水道料金の改定をさらに半年延期することとし、延期に伴う上下水道事業会計への補填措置を行いました。また、事業者等への支援として、緊急経済対策利子補給金や中小企業者事業継承支援をはじめ、イベント等へ助成する消費拡大支援事業やキッチンカー購入支援等の経済対策を計上いたしました。

さらに、消費喚起に加えて、アフターコロナも見据えた取組として敦賀ネットモールの利活用推進を図るため、ネットモール掲載店舗を対象とした電子クーポンの発行を行うとともに、新庁舎証明書発行窓口等におけるキャッシュレス対応や、保育園の保護者とのやり取りをICT化するなど、感染症対策と併せて市民の皆様の利便性向上を図ります。

最後に、人口減少対策及び交流人口増加の推進につきましては、移住者向けのホームページの拡充と併せてパンフレットを作成し、情報発信の強化を図るとともに、コロナ禍を新たな機会と捉え、サテライトオフィスの誘致を図る既存の制度に加え、県と協調した新たな補助制度を設けます。

また、結婚生活支援事業として、一定の条件を満たす方への支援金を新たに設けるとともに、出産後の支援として、これまで行ってきた宿泊型の産後ケアに加えてデイサービス型やアウトリーチ型の支援を追加する経費を計上いたしました。

さらに、総合運動公園内のちびっこ広場において、老朽化した遊具の更新に併せて、幅広い年代が楽しく健康づくりができる多世代型ウェルネス広場を整備するとともに、健幸スマイルチャレンジ事業として、スマートフォンのアプリを活用した新たな健康づくりの取組を通じて市民の健康増進を図ります。

引き続き、今度は令和2年度3月補正予算について申し上げます。

まず一般会計では、新年度予算に計上予定であった橋梁長寿命化や総合運動公園テニス

コート改修経費等について、国の補正予算を活用し前倒して計上いたしました。

その他の予算といたしましては、職員の早期退職に伴う退職手当や、ふるさと納税を通じて全国からお寄せいただいた寄附金を原資に新たに造成するふるさと応援基金へ積み立てる経費等を計上いたしました。

次に、特別会計では、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、後期高齢者医療特別会計において保険給付費等の不足見込額を計上いたしました。

最後に、企業会計につきましては、水道事業会計において、雨水管渠呉羽幹線の整備費に国の補正予算を活用し前倒して計上いたしました。

以上が3月議会に提案いたします令和3年度当初予算及び令和2年度3月補正予算の概要でございます。

それでは、次に、引き続きまして2番目でございます。新型コロナウイルスワクチン接種に係る高齢者施設等向け説明会の開催についてであります。

いよいよコロナワクチンの接種について進めていくこととなりますが、新型コロナウイルスワクチン接種につきましては、まずは65歳以上の高齢者の方への接種を4月1日以降に開始すると国から示されており、市では現在、敦賀市医師会をはじめとする関係機関と接種体制に関する協議や、3月中旬以降に送付する接種券、案内チラシ、予診票などの準備を進めています。接種券等を送付する3月中旬までには相談や予約受付の窓口を開設し、市民の皆様のワクチン接種に関する相談に対応するほか、広報つるがやケーブルテレビ、ホームページ等でワクチンの有効性や安全性、接種の流れ等をお知らせする予定です。

また、今回、高齢者施設等に入所し集団で生活されている方の接種につきましては、他の高齢者の接種体制等と異なることがありますので、まずは対象となる施設に対しまして、2月18日13時30分からあいあいプラザで新型コロナウイルスワクチン接種に関する説明会を開催いたします。

説明会では、スムーズな接種に向けて現時点での情報を共有し、高齢者施設に入所している方に、ワクチンを接種する際の事前準備や高齢者施設の従事者の接種等について説明をいたします。なお、今回の説明会では、2月12日に県から発表がありました、ワクチン接種の連携強化のため県が設置した市町支援班の担当職員も同席し、県との連携を図ってまいります。

発表項目は以上であります。どうぞよろしく願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 2点お伺いします。

まず、コロナ禍の影響を踏まえた初めての予算編成ということなんですけれども、特に市長として、例年の予算編成と違ってこういった点に気を配ったとか苦労したとかという思いがあれば教えていただきたいのと。

それと、もう一つは、いろいろな拡充、新規も含めてありますけれども、特にご自身の予算編成された中で思い入れのある事業があれば教えてください。

【市長】 気を配った点といいますと、コロナ禍ですので積極的に経済対策とか新幹線対策とかしていきたいんですけれども、わーっと広がればいいというわけではありませぬので、いかに適度にとるところを考えながら進めていくかということがありますので、そ

ういうところを気を配りながら進めてまいりました。

それからあと、特に思い入れがあるところということですが、テーマとしましては3つありますが、新幹線開業に向けたにぎわいの創出と、アフターコロナを見据えた社会経済活動の推進ということと、人口減少対策及び交流人口の増加の推進とありますが、この中でやっぱり一番気になるところは、アフターコロナとまでは言いませんが、コロナ禍の中でコロナ禍を見据えた社会経済の推進というところで、暮らしと経済を支え、未来につなげるかけ橋になるような予算をしたいということが思い入れであります。

それぞれのテーマごとに申し上げますと、1つ目の新幹線では、まちづくりプレーヤー発掘・育成支援事業というのが5ページにありますけれども、敦賀市は、10月とか11月にイベントをやりましたけれども、いろんなイベントをしてお客さんを集めてきたり、コロナ禍の中でにぎわいをつくったりするのは上手にできるんですけれども、それが例えば、敦賀真鯛のバーガーができたけれども、それを売っていくとかお金につなげていくところがもう一つ苦手なのかなということを思いますので、まちづくりのプレーヤーがいますけれども、若い世代を巻き込んでそういう実際の実経済につながっていくような仕掛けをつくっていききたいということを思っています。

それから、2つ目のアフターコロナというところで言いますと、去年からもやっていますが、敦賀ネットモールの利活用推進事業というのがございます。コロナ禍ではやっぱり外に出にくいというのがあって、ネット販売とかというのが主流になってくるのかなということがありますので、おかげさまでふるさと納税がうまく回っていますので、その敦賀に対する人気とか知名度についてこのネットモールで還元できたらいいなというふうに考えています。

それから、テーマ3の中でと言いますと、いろいろ思いはあるんですけれども、多世代型ウェルネス広場というのを今度、杳見の総合運動公園に造ろうとしております。今まではお子さんだけが遊べるような空間というのを考えておりましたが、お子さんと高齢の方、また、お父さん、お母さんたち、おじいちゃん、おばあちゃんたちといろんな方に来ていただいて集えるような広場になっていったらいいなということで、ここに思いを込めて事業化させていただきました。

以上です。

【記者】 ちなみに、何かご自身で一言でこの予算にネーミングつけるとしたらどんな。

【市長】 いろいろ相談したんですけれども、「コロナ禍における暮らしと経済を支え、未来につなげるかけ橋予算」という感じかなと思います。

【秘書広報課長補佐】 幹事社さん、よろしいでしょうか。

それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきまして質問ございましたら挙手のほうをお願いいたします。

【記者】 今の質問に関連した質問になりますけれども、まず新幹線開業後のにぎわい創出についてなんですが、これについては1年延期というのがありますけれども、その期間をどういうふうにプラスにつなげるというか、どういうふうに生かしていこうと思っておられますでしょうか。

【市長】 1年遅れましたので、前向きに捉えられるところは捉えていきたいというふうに思っています。その中で、駅西のホテルとか飲食施設につきましては従来どおりやって

いただけるということになっていきますので、従来どおりやって、できましたらすぐ開業ですでなくて、ちょっとブランクがありますので、その間に、ここを改良したほうがいいねということができたらいいなということを考えておりますし、また、駅東については、日程的に多分今でもぎりぎりなのかもしれませんけれども、その中で広域観光につなげていける仕組みというのが必要になってきますので、1年遅れた分だけ駅西のほうでそういう広域観光につなげながら、いざ全面オープンしたときの対応ということをしていきたいというふうに思っています。

それから、先ほど言いましたように、イベントとかは結構敦賀市は上手だと思っております。その対応とか人のさばきも上手だと思いますし、商店街の方、またいろんな有志の方たち、ボランティアでやってくれていますのでそこはいいんですけれども、今ほど申しましたように、そこから経済につながっていく、お金につながっていく、豊かになったねというところが苦手なところだと思いますので、そこをもう一度展開していける猶予をいただいたというふうに考えています。

【記者】 2点目のコロナ対策についてなんですが、例えばいろんな事業、コロナ対策というのは県も他市町もやっていると思うんですけれども、敦賀において、このところはちょっと違うことをしたとか思い入れを込めてやったとかということがあればお教えください。

【市長】 金額的に一番大きいのは上下水道料金の改定の延期なんですけれども。ちょっと地味なんですけど、市民の皆さんに敦賀市はお金を個別に配っておりませんが、水道料金という部分の値上げをしないことでそういう還元ができるのではないかなということの一つ考えています。

それから、奨学育英資金の貸付けということを去年もやりましたけれども、さらに貸し出すことに対して、過重な債務にならないような関係の中で頭をひねって作り出しましたので、これは新たなものだというふうに思っています。

あと、保育園も一斉にICT化をしていきますので、これは保育士さんの業務軽減にもなりますが、接触をできるだけ減らしていくということについてはコロナの中での対応かなど、これは独自のかなどそれぞれに思っております。

あと、ネットモールもそうです。

【記者】 今回、歳入の面では30億円以上のふるさと納税というのがあって、今後のふるさと納税の取扱いというか、そういった見込みはちょっと低めに設定されていますが、その辺は今後どのようにこのふるさと納税を生かしていきたいというふうに思っていますか。

【市長】 今年、ふるさと納税をすごく頂きましたので、来年以降もこれ以上増やしていきたいというのは担当者含めてみんなの思いなんですけど、それを財源として充て込むというのは非常に危険だと思っています。ですから、この新しい新年度の予算もそこはあまり充て込まないようにしようというのは一つの方針として持っています。

その中で、頂いたお金と返礼品をお返しした経費が差し引かれた、10億円以上ありますけれども、それについては用途をしっかりと示していかなくてはいけないと。皆さんから頂いたお金ですから、ここに使いましたというのはしっかりと示せるようにしようということを考えておまして、1年基金で寝かせた形で、次年度になります。令和4年度にな

りますけれども、それまでにこういう形になったということは示せるようにしたいと。また、一部令和3年度でも使いますけれども、その中でも示していきたいと。それで満足していただけるというか、返礼品も満足していただかなくてはいけないでしょうけれども、この寄附の行為ということが敦賀の応援になったということも実感していただけるような仕掛けにしていきたいと思っています。

【記者】 令和3年度、今回の予算に盛られている中では、それは何に該当するのでしょうか。

【総務部長】 総務部長でございます。

昨日、事前に説明させていただきましたとおり、2年間ちょっと、寝かすと言うと変ですけれども、保留していますので、今年度の充当先につきましては令和元年度分の寄附金という形になってまいります。例えばですけれども、保育園のICT推進事業とかこういうものに充て込んでいきたいというふうに考えております。

【記者】 昨日も事前にレクがあったのでいろいろ聞かせていただいたんですが、市長としての思いもお聞かせ願えたらと思うんですけれども。敦賀市特有の話として庁舎の件と、あと小中一貫校の件ということでそこに経費がかなりかかるということの中で、今年度と比べれば予算自体は減っているものの、その額の差額分から比べれば結構大型というか、これまでも中でも相当予算としては一番高いと言ってもいいぐらいの規模感かなというふうに見受けられるんですけれども。その中でもいろいろ予算を編成していく中で、結構チャレンジ的にやれること、チャレンジ的にできるものを、どんどんアイデアを出してほしいというふうには何か市長も職員さんに言われて実際に予算をつけたというものもあるように聞いているんですが、その辺も含めて、来年度のこの予算編成の額というか、そこに至った市長の今回の思いというか、何かそこを、何でチャレンジさせる感じというのを取らせたのかなど。その辺教えていただいてもいいでしょうか。

【市長】 ありがとうございます。

おっしゃるとおり、令和2年度に比べますと3年度は減っていますけれども、実際はそんなに中身的には減っていないと思います。やっぱりこのコロナ禍の中で経済対策もしなくてはいけないというのがあります。

もう一つは、私、1期目の当初から一つの事業で幾つかの効果があるものができたらいいねということを言っていますので、いろんなものを挙げてきてもらって、それが相乗効果を生むようなものがあつたら、取捨選択する中でやっていけたらいいなということを思っています。ですから、先ほどの運動公園の話とかについても、公園整備をすればいいというのだったらただのお子さんたちの公園整備になりますけれども、それと併せて高齢化に対してのものとか、それから多世代で来ることによるにぎわいづくりとか住みやすさとかいうところも生み出せたらいいねというのがありますので、そういういろんなアイデアを出しながら、トータル的に考えていいものというのをつくっていく。そのためにはいろんなアイデアが要りますし、いろんな職員の思いが必要だと思っています。ですから、そういう意味では、みんないろんなものを出してきてねということでお願いしております。

【記者】 そういう形で何度かコミュニケーションを取るうちに出てきたアイデアというのもあつて、予算をつけたというような、そういうやり取りも結構密にあつたという感じでしょうかね。

【市長】 正直言うとあまりなかったかもしれませんが、コロナ禍の中で。

敦賀市の職員は、私が市長になったときは、ルーチンよりも違うことをするというのは非常に嫌がったと思います。けれども、今はそのプラスアルファでいろんなことをすることに対してはあまり抵抗がないのかなと思っています。ですから、こんなことをしたらこういうふうになってよかったという成功体験を結構皆さんが持っているので、そういう意味では出しやすい職場環境になっているんじゃないかというふうに期待しています。

あとは、各部署の部長さんとかが頑張って発破をかけたりしているんでしょうけれども、中身的には非常にいいものが上がってきているというふうに思っています。

【総務部長】 ちょっと補足説明で。申し訳ございません。

例年ですとタイムスケジュールというのがございまして、財政課長査定、総務部長査定を受けまして、一旦、市長のほうへこういった事業が上がります、出ていますということで集計の形で、途中経過みたいな形で申し上げます。その途中経過の中で、やはりちょっともう少し知恵を絞って創意工夫して何か新しいもの、チャレンジできるもの、こういったものが生まれてこないか、出てこないかということで、自由な発想で既成概念にとらわれないような、そういった条件の下で、ブレインストーミングみたいな形ですけれども、出てこないかという形で再度そういった新規事業の受付を行いまして、実際に20を超える事業が出てまいりまして、実際に採択されましたのはそのうちの12事業でございます。額といたしますと4億668万6000円でございます。この中にはちょっと市長の提案の分もあるんですけども、職員だけではなくて市長も自ら提案されたという、こういったものもございます。

【記者】 ありがとうございます。

先ほどあった話で駅西地区の整備に関して従来どおりやれるというふうにお答えになったのは、その工期というか、そこが従来どおりのスピードでやるということでしょうか。

【市長】 ホテルの建設と商業施設の建設を予定しておりますけれども、それは従来どおりのスピードでやっていくと聞いています。

以上です。

【記者】 それが令和2年夏頃ですかね。

【片山副市長】 令和4年。

【記者】 令和4年夏、分かりました。

ありがとうございます。

【記者】 新型コロナウイルスのワクチン接種に関して伺いたいんですけども。先ほどお話の中で、高齢者施設の入居者の方は個人と異なるということで明日説明会ということなんですが、逆に一般の65歳以上の高齢者の方に関して集団接種あるいは個別接種という検討状況はどうなっていますかという点と、もし集団接種であれば、その接種会場の検討状況なども併せて教えてください。

【福祉保健部長】 福祉保健部でございます。よろしくお願いたします。

集団接種か個別接種かの検討状況というところでございますが、今、医師会のほうで、自院のところまでどれぐらい接種していただけるか等を調査をしております。その中で集団接種をした場合に対応していただけるかというふうな調査も含めていただいております。

すので、その結果を踏まえまして、基本的に個別接種だけでは無理というのは明らかでございますので、集団接種をどれぐらい、何会場必要なのかというのは、これからその部分を調査の結果を踏まえて医師会さんと相談しながら検討を進めているところでございます。

あと、接種会場につきましては、やはり密を避けての接種、接種後15分以上30分程度はその場でちょっと待機をしていただく必要があるというふうなところで、皆さんお車で来られますので駐車場が広くあること、そういったところを考えまして幾つか会場のピックアップはしておりますが、何分、時期的なところ、ワクチンがいつ、どれぐらい敦賀市分として入ってくるかというふうなところが全く見えてきておりませんので、詳細な会場の日程調整等につきましては今後の検討といえますか、今後計画をしていくというところでございます。

【記者】 お話にありました医師会の調査というのは、いつ頃出てくる見通しとかはあるんでしょうか。

【福祉保健部長】 第1陣の調査は先週末で締め切られてというところですので、その集計結果を医師会の中で確認をしていただいた上でまた提供いただいて一緒に考えていくというふうなところになるかと思います。

【記者】 そうなると、あしたの高齢者施設への説明会というのは、こういうふうにしますというお話の提示ではなくて、現時点でこういう情報が入っているのでこういう可能性があるので準備してくださいという話にとどまる。

【福祉保健部長】 今、想定といいますか可能性があるというふうな、きちっと決まったものがございませんので、今の検討段階の内容であったりとか、入所者の場合ですと、敦賀市の方もいらっしゃるけれども他市町の方もいらっしゃいますので、そういった方の接種券をどうするかとか、そういった事務手続上のいろいろ処理等もございますので、その部分等もご説明をさせていただき予定をしております。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【記者】 今に関連して、先ほどおっしゃられた中に、何か市町支援官みたいな、何かそういう言い方の方が同席してどうこうと言ったかなと思います。その辺ちょっと、僕、すみません、存じ上げなかったもので、どういう役割の方でどういうふうと同席されてというのをまたちょっと詳しく教えていただけますでしょうか。

【福祉保健部長】 先週末、知事が会見のほうで説明をされておりましたが、ワクチン接種の連携強化というところで、まずは国と県との情報共有を図るために、厚労省のほうに県職員1名を派遣し、県との連携をスムーズに取れるようにするというのと、あと、市町村ごとにワクチン接種の体制を構築していくわけなんですけれども、その構築するに当たりましていろんな広域的な課題等も、例えば美浜町にお住まいの方が敦賀市で受けられるとか、敦賀市にお住まいの方が福井市で受けたいとか、そういったご希望の方もいらっしゃいます。主治医の方が他市町という場合の接種等のやり取り等もございますし、医師とか看護師の確保ができない場合は広域で行うとかもありますので、県と市町との情報共有であったりとか支援をするとか、市町の接種体制の構築を一緒に考えていく職員としまして、県のほうが市町村ごとに1名ずつ配置をして、週に1、2日業務を担っていただくというふうなところになっております。今週からということで、まずは敦賀市の今の現状

を知っていただいた上で課題等を共有して県とのやり取りをしていただいたりとか、そういったようなところをお願いしようかと思っております。

【記者】 先ほど市長がおっしゃられた中で、駅東のほうの整備が延びたことで広域観光への対応みたいな話がありましたが、広域観光への対応というと大体どんなイメージで考えればよろしいでしょうか。

【市長】 イメージ的には、新幹線が開業した場合、駅東から広域観光バスとかが出入りすると思います。その準備というのは、駅を設置しただけではなくて、隣接の市町とか、例えば敦賀で言いますと嶺南各市町とかもやっているはずなんです。ですからレインボーラインに行ったりとかいرونなどところへ行ってやりたいなどというのはもう準備していると思いますので、そういうことも受け皿としてやらないといけないというふうに考えていますので、その辺も検討して準備していきたいと。ですから、それが1年遅れましたよ、できませんよと言ってしまうと段取りが全部狂ってくると思いますので、その辺も対応していきたいという意味で申し上げたんですけれども。

【片山副市長】 例えば県の来年度予算で、敦賀からレインボーラインへ行くバスを試験的にというのがあるんですね。それはどうしても現状では駅の西からとなりますよね。新幹線が開業すれば、例えば当初、令和5年の3月から駅東から行く予定だったかもしれませんが、来年の試験運転の結果にもよりますけれども、どういった、その1年間の間どこを発着点にしてとか、場合によっては整備が必要かもしれませんし、というふうなことでございますね。

【記者】 基本はやはりバスとかが中心になっていくと考えればよろしいでしょうか。

【副市長】 ええ。1年間の間に、今市長が申し上げた広域観光、情報発信をどうしていくかというのもあるかと思えます。敦賀がどうしても起点になりますので、そこで広域的な情報をどうやって発信していくかと、そういったことも今後検討していく必要があると思えますし、費用がどれくらいかかるかというのもあるかもしれませんけれども。

【記者】 分かりました。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと。幹事社さんのほうからどうぞ。
よろしいでしょうか。

それでは、各社にお伺いいたします。ご質問がございましたらお願いいたします。
よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして3月の定例記者会見を終わらせていただきます。
ありがとうございました。

午後2時8分 終了